



【きし ひろみ さん】 北斗

●千歳陶芸会の会長を務める。  
市民文化センターで開催している陶芸教室の第一期生として、昭和59年から陶芸をはじめ。現在は、後輩の育成にあたったている。

陶芸で自分の思いを  
形にしてみませんか

**陶**芸は、自分が思い描いたアイデアを土と触れあいながら形にしていきますと話す岸さん。

土に触れたいという思いがあり、またしたので、陶芸をはじめの前は、チューリップやスイセン、バラなどの植物を育てながら土にさわっていましたが、満足できない気持ちがありました。そこにありました。そんなとき、市民文化センターで陶芸教室があることを広報で知り、友達を誘って陶芸をはじめたのがきっかけです。

陶芸の土に触れた瞬間に、「これだ！ 私の探していたものは」と直感しました。

陶芸教室では、先生からアドバイスがあり、1年に一つで良いので、

大きな作品（大もの）をつくりなさい。デザインも自分で考えなさい。そして、しっかりと学びなさい。がんばれば出来ると言われたことが、今の自分の土台になっています。

陶芸をはじめて28年になりますが、これまでに湯飲みや皿、茶碗、ぐい呑みなどのほか、大ものも30点ばかり制作しています。

私が一番気に入っている作品は、平成10年に北海道美術工芸協会の美工展に出展した、「春の舞」と名付けた大もの壺です。褐色の色をして、表面に白い桜の模様をちりばめました。これは象嵌（そうがん）という技法で、表面の一部を削り、白い土をはめ込んで、模様にしていくものです。

陶芸には、「素焼き」と「本焼き」の工程があります。焼いているときに、音が聞こえることがあります。誰のだろう？ もしかして自分の作品かなと、それぞれが緊張しながら、窯から取り出すまでは、ドキドキします。

陶芸教室で仲間が大きな作品の制作に取り組んでいるとき、作品が完成した瞬間の顔を見ると、自分までうれしくなりますね。

陶芸教室では、基礎から学ぶことができます。  
陶芸に興味をお持ちの方は、気軽に見学しに来てください。

人のいる風景

SCENERY OF PEOPLE



HIROMI  
KISHI

岸

廣美

さん